

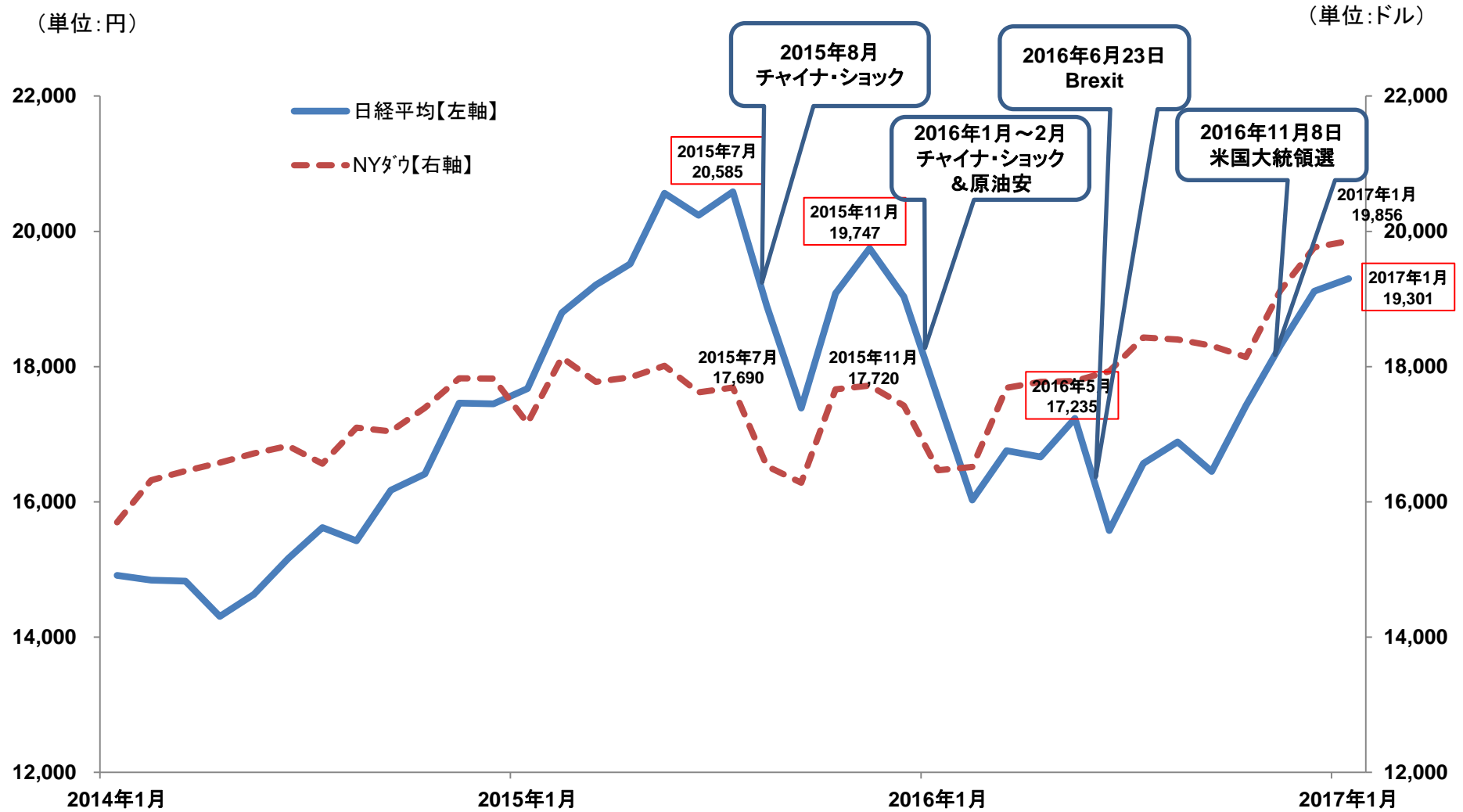
ニューパラダイムにおける新たな資産運用法とは？



2017年1月15日
モーニングスター株式会社
代表取締役社長 朝倉智也

ショックに対する耐性が強い株式市場

日経平均とNYダウの推移



※1 期間: 2014年1月~2017年1月(月次、ただし2017年1月は10日まで)
 ※2 日経平均=日経平均株価(終値)、NYダウ=ダウ工業株30種平均(終値、ドルベース)
 ※3 出所: モーニングスター作成

リーマン・ショック後から継続される金融緩和 & 量的緩和

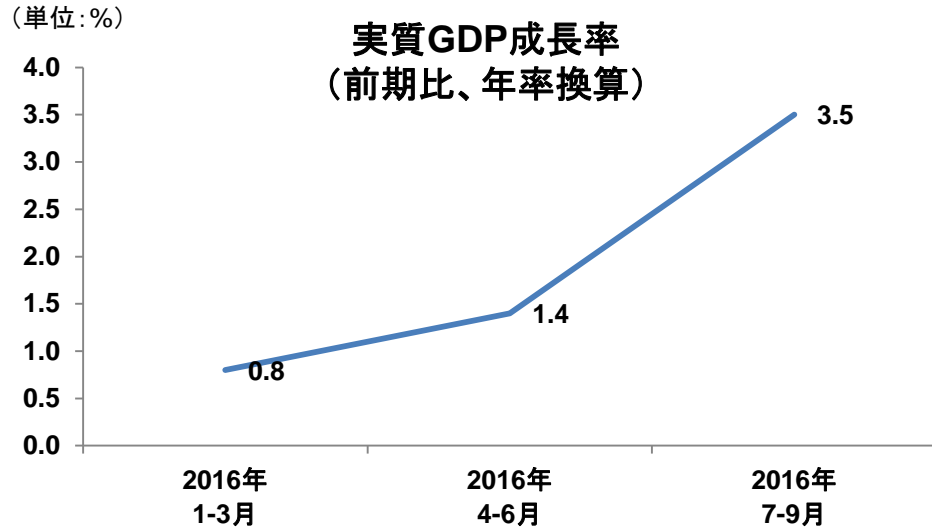
国・地域	年月	政策
米国	2008年11月～2010年3月	量的緩和策第1弾(QE1) : 1兆7,250億ドル (MBS1兆2,500億ドル、米国債3,000億ドル、その他1,750億ドルを購入)
	2010年11月～2011年6月	量的緩和策第2弾(QE2) : 6,000億ドル(米国債)を購入
	2012年9月～2014年10月	量的緩和策第3弾(QE3) : 1兆1,800億ドル(MBS6,400億ドル、米国債5,400億ドル)を購入
	2015年12月	FF金利引き上げ 0～0.25% ⇒ 0.25～0.5%
	2016年12月	FF金利引き上げ 0.25～0.5% ⇒ 0.5～0.75%
日本	2013年4月	量的・質的金融緩和の導入 : 長期国債を年間50兆円、ETFを年間1兆円、J-REITを年間300億円買い入れ
	2014年10月	長期国債の買い入れを年間80兆円、ETFを年間3兆円、J-REITを年間900億円に増額
	2016年1月	(マイナス金利導入) : 日銀当座預金金利
	2016年9月	イールドカーブ・コントロール(長期金利がゼロ%程度で推移するよう、国債買い入れ実施)の導入等
ユーロ圏	2008年11月～2014年6月	マイナス金利導入 : 中銀預金金利(段階的に引き下げ。その後も3回引き下げ)
	2015年1月	量的緩和策を導入 : 毎月600億ユーロの国債等買い入れを実施
	2016年3月	追加緩和を実施、国債等買い入れ額を毎月800億ユーロに増額
中国	2008年11月	4兆元の経済対策
	2014年11月～2015年10月	12カ月物貸出金利(段階的に引き下げ)
	2015年2月～2016年2月	預金準備率(段階的に引き下げ)

出所: 各国中央銀行よりモーニングスター作成

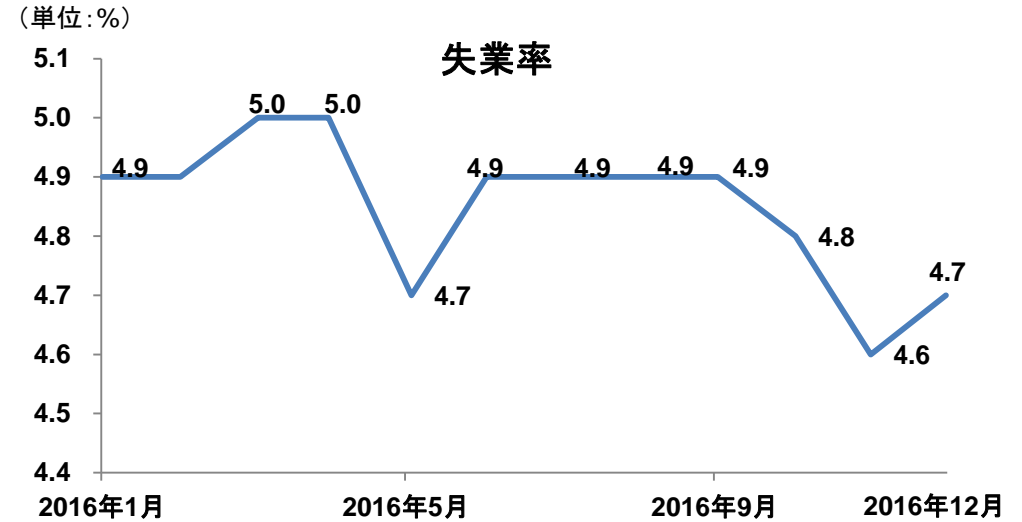
2017年の世界の政治経済の主要なイベント

	イベント
1月	米国・トランプ大統領就任
3月	<ul style="list-style-type: none">・オランダ・議会選挙・米連邦債務上限引き上げ期限・英国・EU離脱の通告・交渉開始期限
4月	フランス・大統領選第1回投票
5月	<ul style="list-style-type: none">・フランス・大統領選第2回(決戦)投票・イラン・大統領選
9月～10月	<ul style="list-style-type: none">・ドイツ・議会選挙・スペイン・カタルーニャ州の独立を問う住民投票・中国・第19期共産党大会

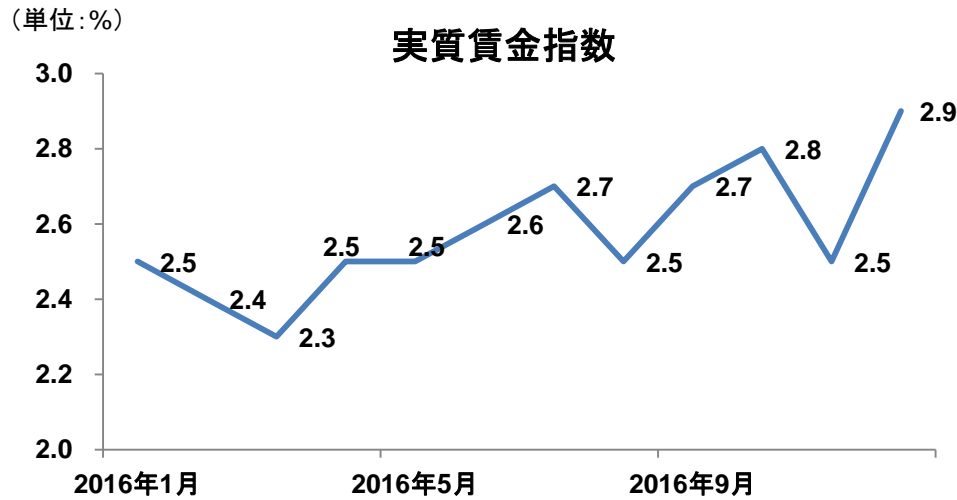
米国経済の力強さ



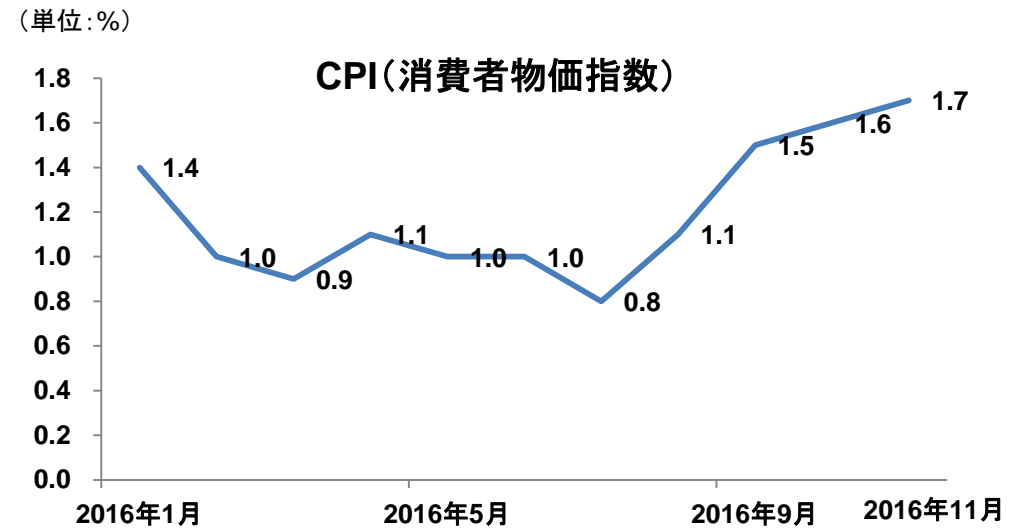
※ 期間: 2016年1-3月~2016年7-9月
出所: 米商務省



※ 期間: 2016年1月から2016年12月まで
出所: モーニングスター作成

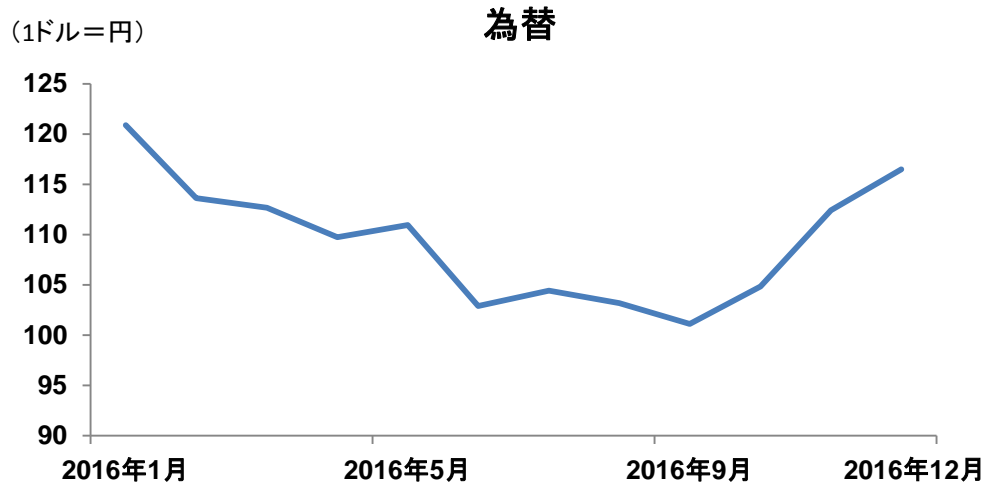


※ 期間: 2016年1月~2016年12月 (月次)
※ 米平均時給 (全雇用者民間合計、前年同月比、季節調整値)
出所: モーニングスター

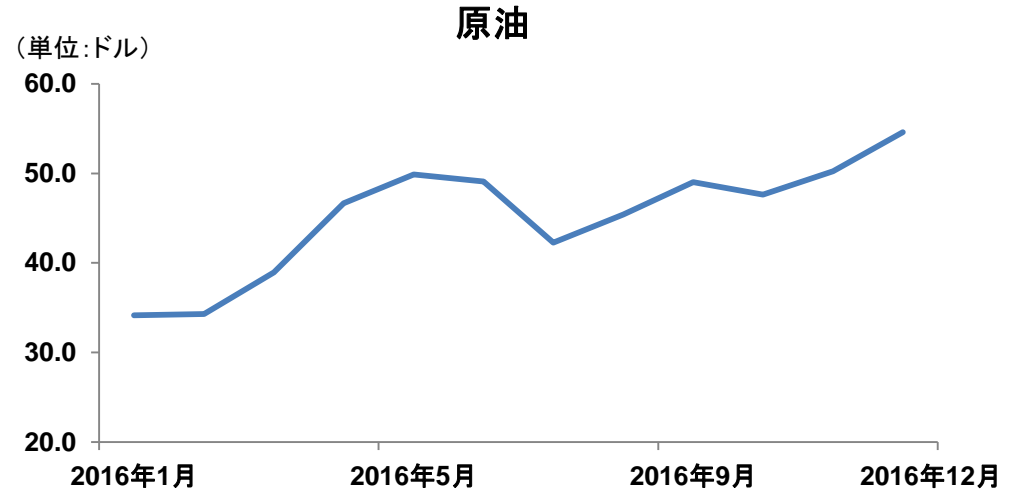


※ 期間: 2016年1月~2016年11月
※ 米国 = 労働省統計局 CPI (総合)、季節調整前、前年同月比 (%)
出所: モーニングスター作成

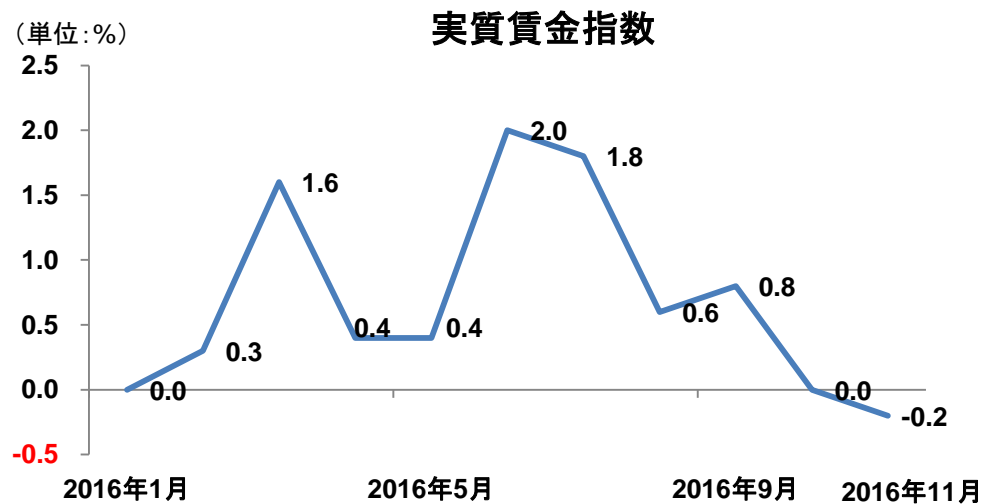
日本は低金利状態での脱デフレの可能性も



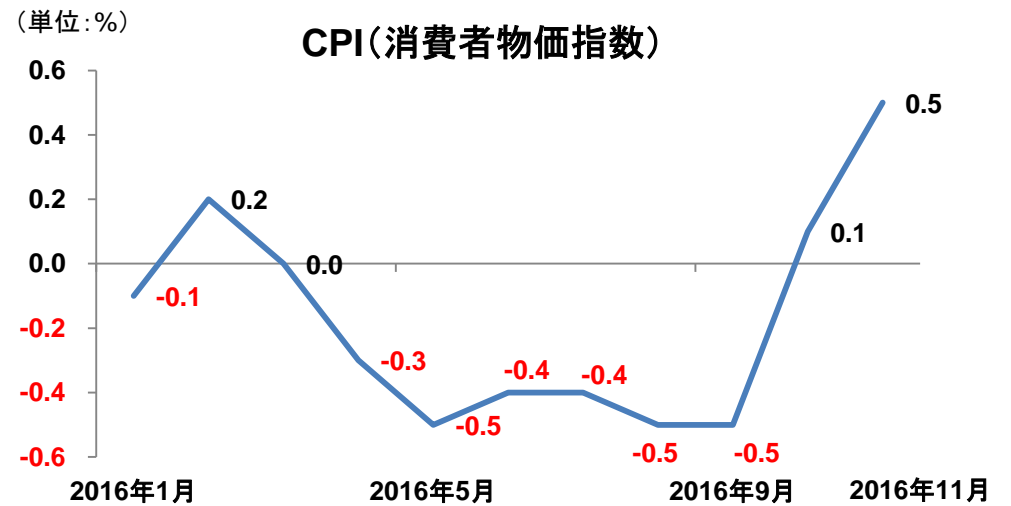
※期間:2016年1月~2016年12月
 ※米ドル=TTM(三菱東京UFJ)
 出所:モーニングスター作成



※原油=NY原油期近(ドルベース)
 ※2016年1月~2016年12月
 出所:モーニングスター作成



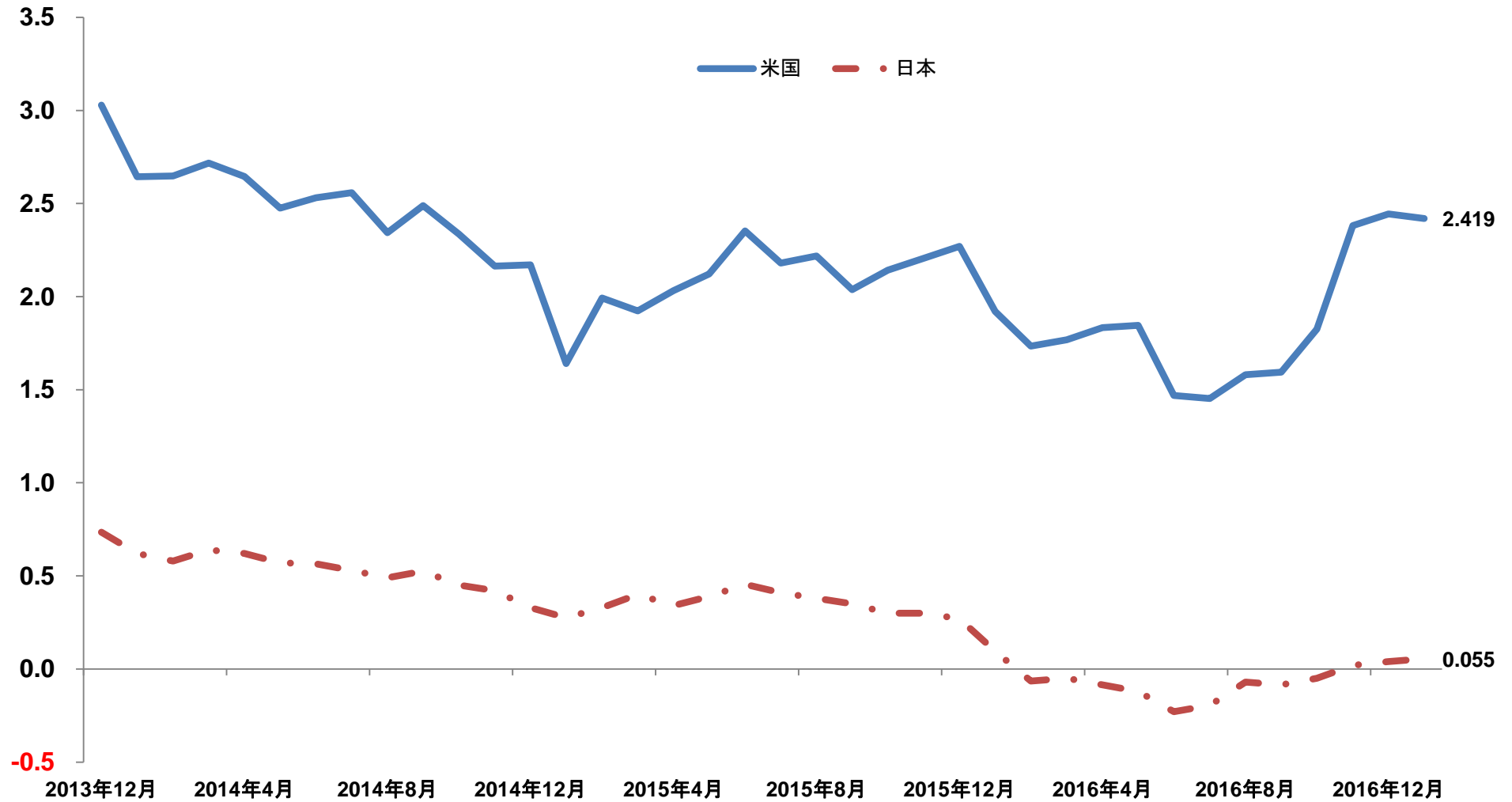
※期間:2016年1月から2016年11月まで
 ※実質賃金は、名目賃金指数を消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)で除して算出
 前年同月比(%)
 ※厚生労働省「毎月勤労統計調査(確報)」を基にモーニングスター作成



※期間:2016年1月~2016年11月
 ※総務省統計局 総務省統計局 消費者物価指数(全国、総合)、
 季節調整前、前年同月比(%)
 出所:モーニングスター作成

日米10年国債の利回り

(単位:%)



※期間:2013年12月~2017年1月(月末終値、2017年1月のみ6日終値)

出所:モーニングスター作成

世界経済は引き続き低空飛行な状態

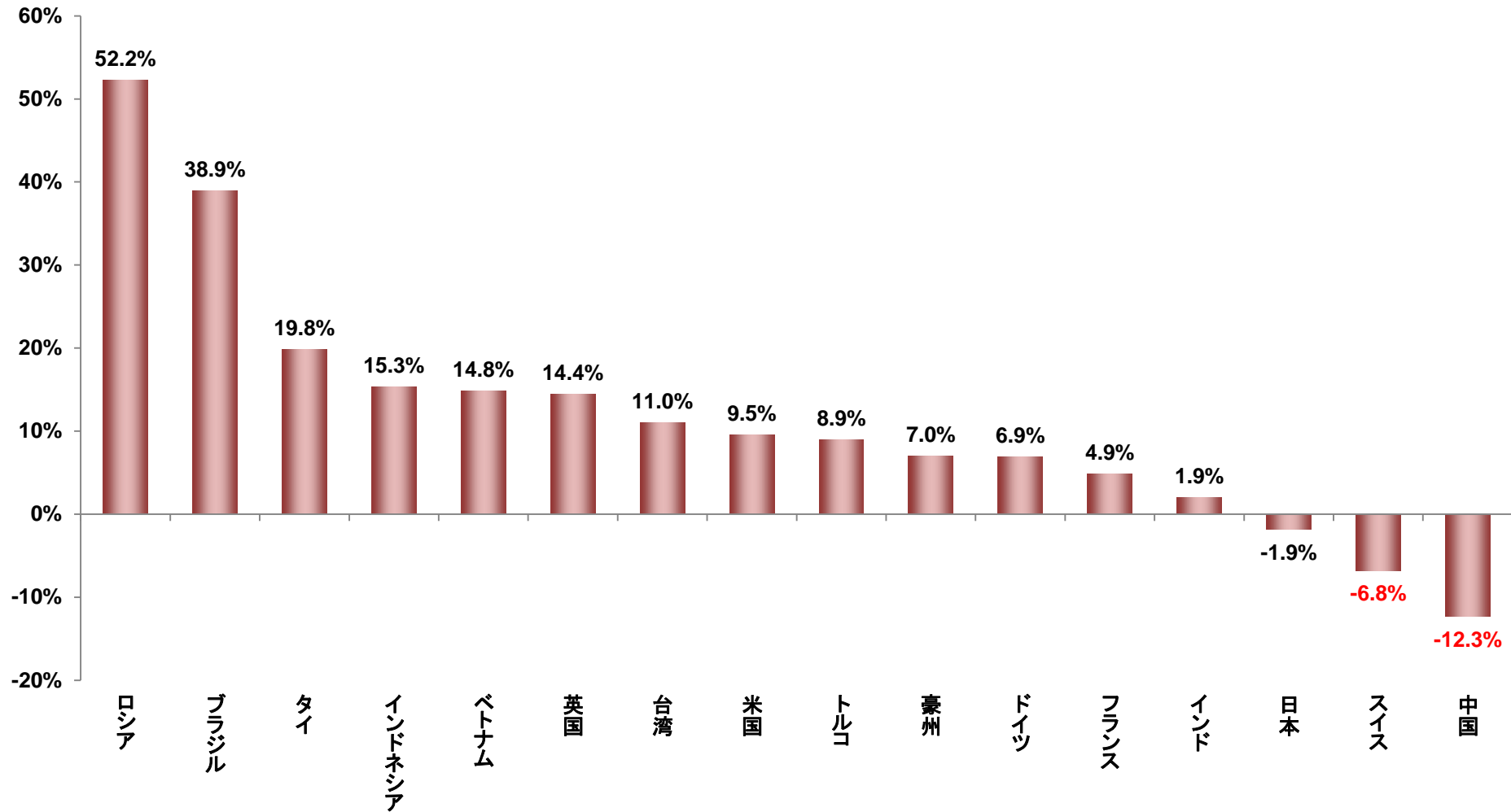
(単位:%)

	予測(2016年10月)		2016年7月の予測との比較	
	2016年	2017年	2016年	2017年
世界全体	3.1	3.4	0.0	0.0
先進国	1.6	1.8	-0.2	0.0
米国	1.6	2.2	-0.6	-0.3
英国	1.8	1.1	0.1	-0.2
ドイツ	1.7	1.4	0.1	0.2
フランス	1.3	1.3	-0.2	0.1
イタリア	0.8	0.9	-0.1	-0.1
日本	0.5	0.6	0.2	0.5
新興国	4.2	4.6	0.1	0.0
中国	6.6	6.2	0.0	0.0
インド	7.6	7.6	0.2	0.2
ブラジル	-3.3	0.5	0.0	0.0
ロシア	-0.8	1.1	0.4	0.1
メキシコ	2.1	2.3	-0.4	-0.3
アセアン5カ国	4.8	5.1	0.0	0.0

※1 出所: International Monetary Fund. October 2016 のデータを基にモーニングスター作成

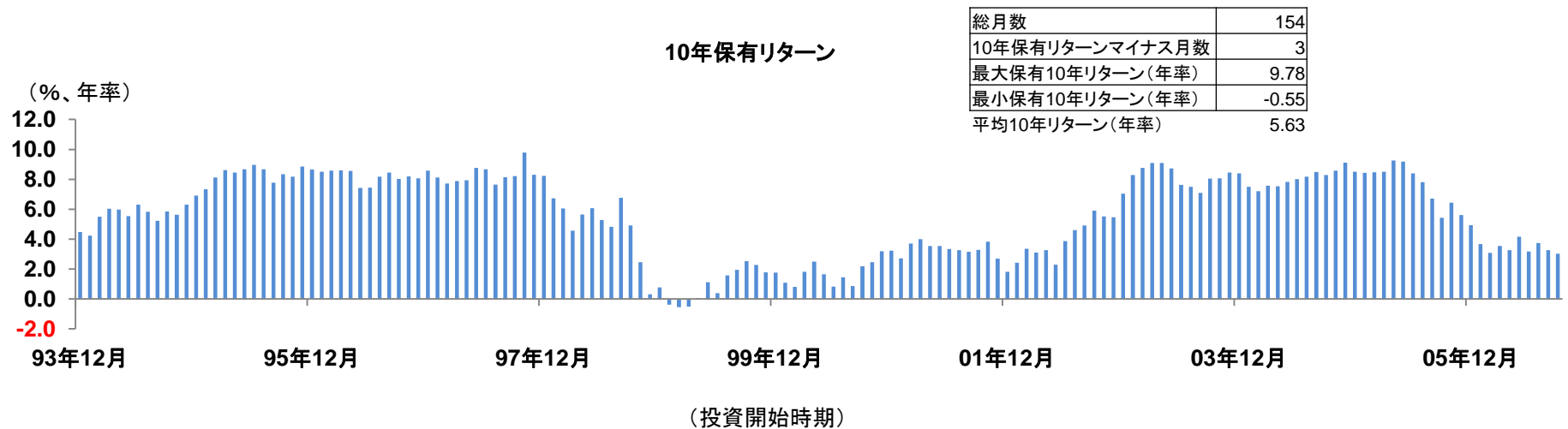
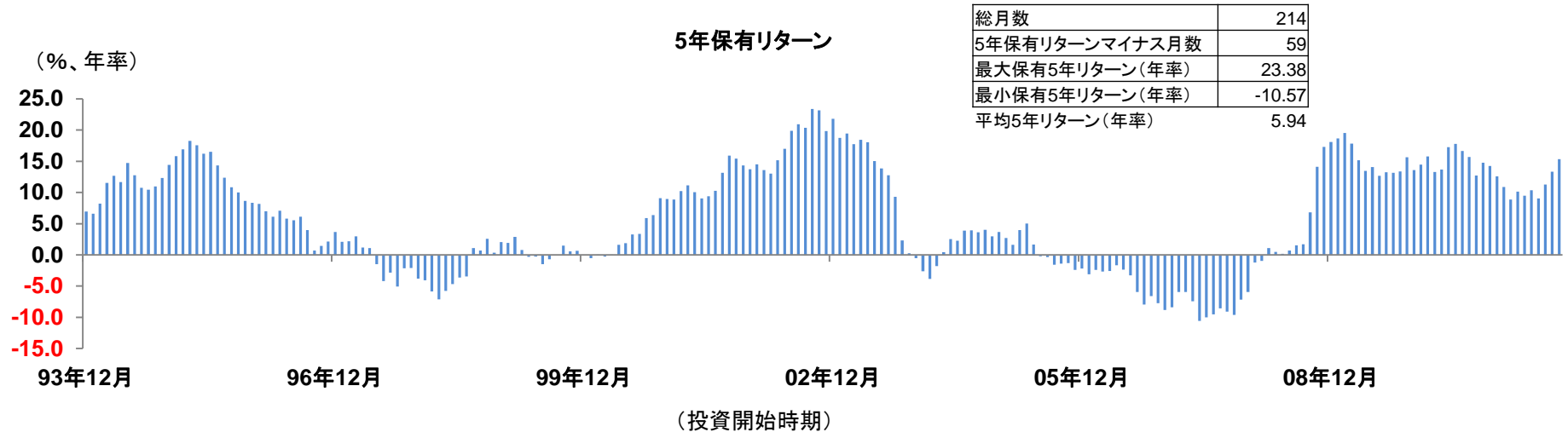
※2 アセアン5カ国: インドネシア, マレーシア, フィリピン, タイ, ベトナム

2016年の主要な株式市場の年間パフォーマンス



価格変動の高い株式型投信は長期分散投資で

3資産分散投資(国内株(20%)・先進国株(50%)・新興国株(30%))のポートフォリオのリターンの推移

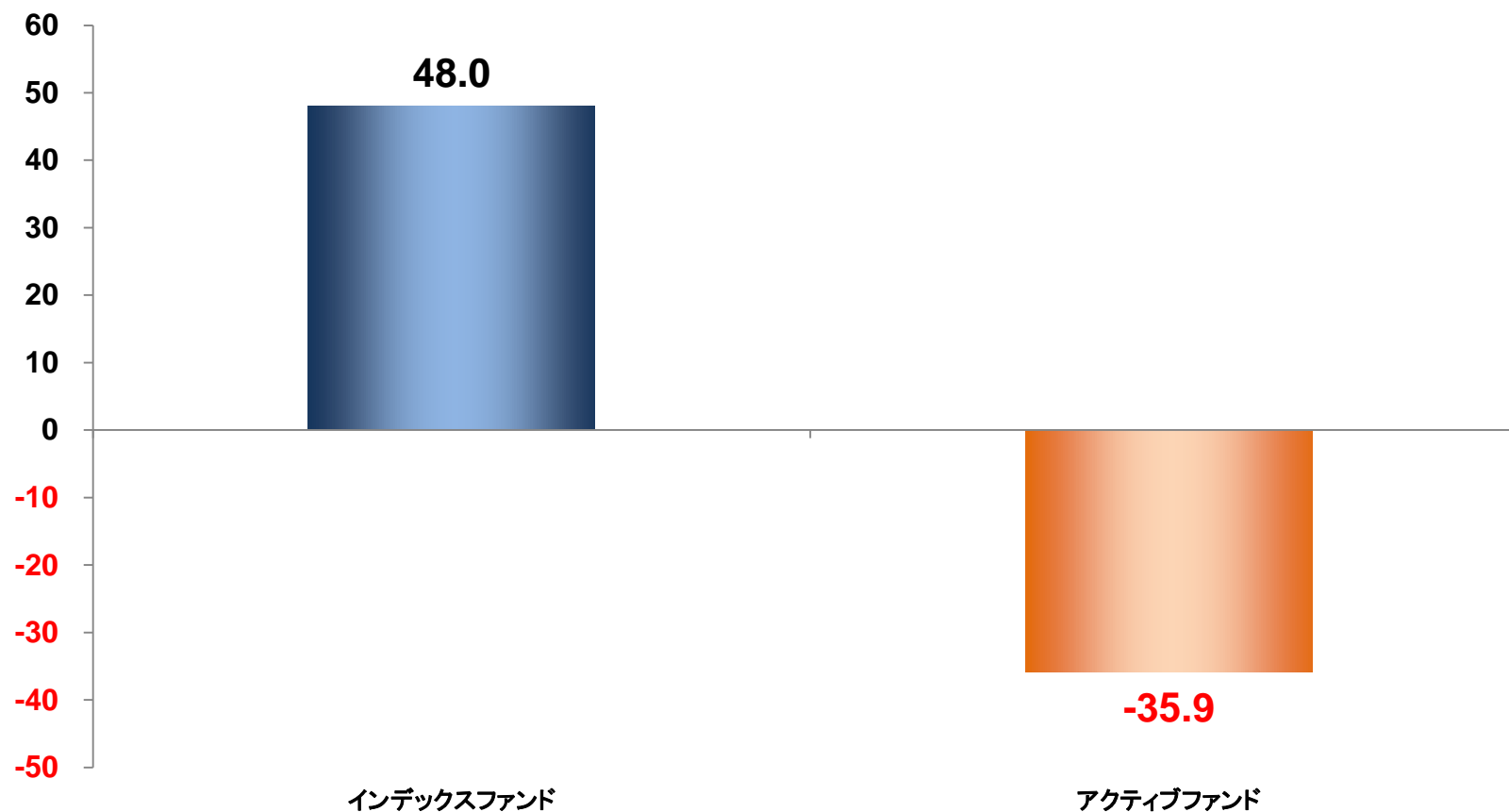


※日本株=TOPIX(配当込)、先進国株=MSCIコクサイ(配当込、円ベース)、新興国株=MSCIエマージング(配当込、円ベース)
 ※円ベース=ドルベースの月末インデックス値×月末円・ドルレート(TTM)
 ※1993年12月から2016年9月までの月次リターンに基づく、国内株式:2割、先進国株式:5割、新興国株式:3割

米国の投信市場は「アクティブ」から「パッシブ(インデックス)」へ

米国の投資信託の年初来(2016年11月迄)の資金流出入額

(単位:兆円)



※1 出所: モーニングスター作成

※2 米国籍オープンエンドファンド(ETF含む、MMF等除く)

※3 資金流出入額はモーニングスター推計値で、2016年11月までの累計値

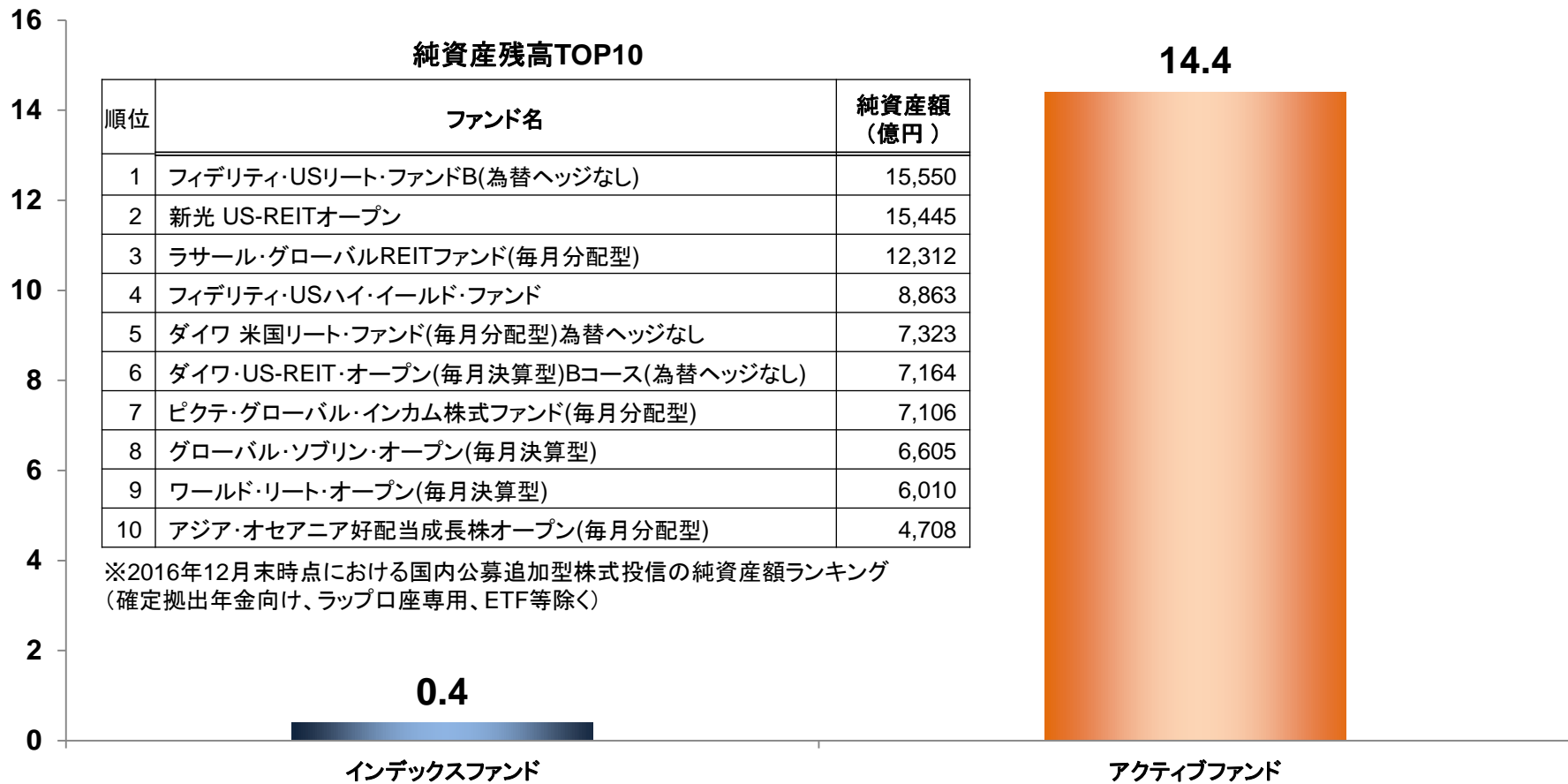
※4 資金流出入額は1ドル=117円で円換算

国内設定のファンドは相変わらず毎月分配型の アクティブファンドを中心に資金が流入

国内公募追加型株式投信の資金流出入額

＜2016年1月～12月＞

(単位:兆円)



※1 出所:モーニングスター作成

※2 モーニングスターが算出した1ヶ月流出入額(前月推計値)、及び投資信託協会出所データ(過去月確定値)を基に作成

※3 対象ファンドは、前月末時点の追加型株式投信(ETFを除く)。過去月の償還ファンドは集計に含まれておりません。

世界最大の年金基金(GPIF)は パッシブとアクティブを併用してポートフォリオを構築

GPIFのパッシブ運用とアクティブ運用の割合

		2015年度末
国内債券	パッシブ	82.50%
	アクティブ	17.50%
国内株式	パッシブ	81.52%
	アクティブ	18.48%
外国債券	パッシブ	64.94%
	アクティブ	35.06%
外国株式	パッシブ	84.15%
	アクティブ	15.85%
合計	パッシブ	79.28%
	アクティブ	20.72%

※ 出所:年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)

的確なアクティブファンドを選ぶポイント

- (1) コスト
- (2) 過去の運用実績
- (3) ポートフォリオの中味

適正な毎月分配型ファンドの見極め方

<例:UBS世界公共インフラ債券投信(通貨選択型)円コース(毎月分配型)>

純資産:270,277百万円 (2017年1月10日時点)

<運用報告書を確認する>

分配原資の内訳

(1万口当たり・税引前)

項目	第80期	第81期	第82期	第83期	第84期	第85期
	2016年4月26日～ 2016年5月25日	2016年5月26日～ 2016年6月27日	2016年6月28日～ 2016年7月25日	2016年7月26日～ 2016年8月25日	2016年8月26日～ 2016年9月26日	2016年9月27日～ 2016年10月25日
当期分配金	40円	40円	40円	40円	40円	40円
(対基準価額比率)	(0.429%)	(0.426%)	(0.417%)	(0.417%)	(0.422%)	(0.425%)
当期の収益	9円	14円	8円	6円	9円	6円
当期の収益以外	30円	25円	31円	33円	30円	33円
翌期繰越分配対象額	567円	543円	512円	479円	448円	415円

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
 (注2) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
 (注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

パフォーマンス			
年	1年	3年(年率)	5年(年率)
トータルリターン	3.34%	2.11%	2.10%
カテゴリー	2.59%	2.36%	2.67%
+/- カテゴリー	+0.75%	-0.25%	-0.57%

信託報酬等(税込)			詳しく見る
	名目	実質	
信託報酬等合計	0.95%	1.75%	
カテゴリー平均	1.02%	1.32%	
+/- カテゴリー	-0.07%	+0.43%	

※ トータルリターン、信託報酬等は2016年12月末現在
 ※ 分配原資の内訳は、UBSアセット・マネジメント株式会社 運用報告書(2016年10月25)より抜粋。

アクティブ比率の高いファンドとは

TOPIX
組入上位10銘柄（組入銘柄数 1,975）

	銘柄	業種	比率(%)
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.7
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行	2.0
3	日本電信電話	情報・通信	1.8
4	ソフトバンクグループ	情報・通信	1.6
5	KDDI	情報・通信	1.5
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行	1.4
7	ホンダ	輸送用機器	1.4
8	JT	食料品	1.2
9	みずほフィナンシャルグループ	銀行	1.2
10	ソニー	電気機器	1.2

スパークス・新・国際優良日本株ファンド
組入上位10銘柄（組入銘柄数 17）

	銘柄名	業種	比率(%)
1	日本電産	電気機器	10.7
2	ソフトバンクグループ	情報・通信業	10.3
3	ユニ・チャーム	化学	8.8
4	テルモ	精密機器	8.6
5	キーエンス	電気機器	8.4
6	花王	化学	7.5
7	アシックス	その他製品	7.2
8	シマノ	輸送用機器	6.8
9	ミスミグループ本社	卸売業	6.7
10	三菱商事	卸売業	6.3

	TOPIX	国内大型グロース平均	スパークス・新・国際優良 日本株ファンド
純資産額(百万円)	-	-	85,626
コスト(信託報酬等)	-	1.29%	1.88%
トータルリターン1年	-1.85%	-1.11%	7.37%
トータルリターン3年(年率)	5.26%	5.97%	17.09%
トータルリターン5年(年率)	15.82%	18.60%	27.29%

※ データは2016年12月末現在

※ 組入銘柄の基準日は、TOPIXは2016年12月末、スパークス・新・国際優良日本株ファンドは2016年10月31日現在

ニューパラダイム（不透明感とボラティリティの高いマーケット）に 備えて分散投資を徹底する

